



自公政権、参院でも過半数割れ

－ 第 27 回参議院議員選挙。審判下る！－

第27回参議院議員通常選挙は20日(日)投開票され、与党である自民・公明の両党が議席数を大幅に減らし、衆議院に続き参議院においても“少数与党”となった。

『政権選択選挙』と位置付けられたこの参議院選挙において、主たる争点であった物価高対策はおろか、自らの裏金問題にすら有効な対策を見いだせない石破政権に対し、有権者が“NO!”を突き付けた結果だ。

前回 2022 年の参議院選挙(56.55%)、昨年の衆議院選挙(53.85%)よりも高い投票率(61.53%)となった今回の参議院選挙における結果だけに、自公政権に対し有権者が 明確に“不信任”の審判を下したという事だ。

一方、立憲民主党は選挙区・比例代表を合わせ 22 議席の横ばいとなり、勢力拡大とはならなかった。全自交労連が比例代表において推薦した岸 まきこ は再選を果たしたものの、もりや たかし は惜敗となった。

これまで数々のハイタク問題に尽力してきた もりや たかし が国会の場から失われたのは大きい。

全自交労連は今回の参議院選挙においても、各選挙区・全国比例において推薦した候補者全員の当選に向けて、地連本・単組・分会・支部が一丸となり、組合員だけでなく家族、関係者等への投票促進及び推薦候補者への投票を呼び掛けてきた。

この選挙戦における全自交の旗の下に集う全ての仲間の奮闘に心から感謝いたします。